

令和6年度 第3号(通巻8号)

しんこうじ

真光寺遺跡 発掘たよひ

2024年9月24日発行

★4年間の発掘作業が終了

9月末をもって、今年度予定していた発掘作業が終了します。今年度は遺跡の北西側を調査し、中世の方形にめぐる溝跡みぞあとや、中世以降の建物跡と思われる竪穴状たてあなの遺構約10基、掘立柱建物跡の柱穴を含む土坑どこう約260基などがみつけられました。遺物としては、中世以降の内耳鍋ないしなべ(土鍋)や陶磁器片、石臼いしうす、凹石くぼみいしといった当時の生活道具が多くみつかったほか、近世以降の鞆ふいごの羽口はぐちや鉄滓てっさいが出土するなど、鍛冶かじの存在を思わせるものもみつかりました。

令和3年度から開始した真光寺遺跡の発掘作業は、今年度ですべて終了となります。地域の皆さまのご理解、ご協力に感謝申し上げます。4年間、誠にありがとうございました。今後は、長野市にある長野県埋蔵文化財センターにて、発掘作業の成果をまとめ報告書を作成する整理作業を進めていきます。



真光寺遺跡全景(北西から/令和6年8月29日撮影)

★これまでの調査成果を振り返ります

◎波田地区ではじめて古墳発見！

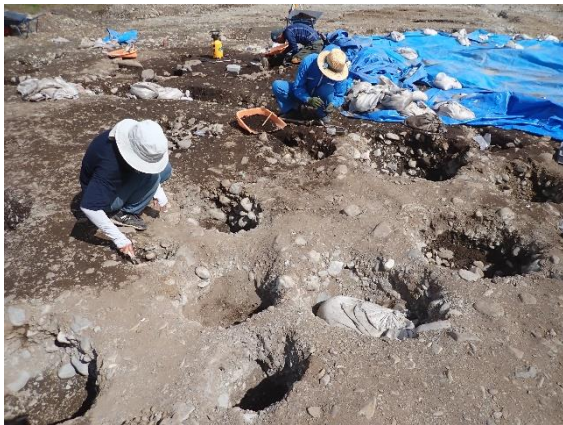
7世紀後半から8世紀初頭（飛鳥～奈良時代）頃に造られた古墳が2基みつかりました。石室の時期や造り方は、近くの安塚古墳群や秋葉原古墳群と似ており、梓川右岸地域の古墳築造を考えるにあたり貴重な事例となりました。



SM02 石室（南から）

◎中世の土葬墓、火葬施設跡

現真光寺お堂の北東では、直径約70cmの円形の土坑が集中し、穴の底面近くでヒトの頭骨の一部や歯がみつかる例が複数確認されました（＝中世の土葬墓）。歯の一部を鑑定したところ、埋葬されたのは6歳以下の子どもの可能性が高いことが分かってきました。また、遺体を燃やした「火葬施設跡」も多数みつかりました。



円形の土葬墓（南から）

◎中世の方形にめぐる溝跡

遺跡の西側で、幅約2m・深さ0.3～0.6mの溝跡がみつかりました。溝跡はほぼ直角に屈曲する部分が2カ所あり、短辺が50m程の長方形にめぐることが予想できます。溝で区画された内側には竪穴状遺構や柱穴の可能性のある土坑などが多数あります。区画内がどのような場所であったのか、今後明らかにしていきたいと思います。



溝跡の屈曲部（東から）

整理作業の成果も「発掘たより」でお伝えしていきたいと思
います。
今後ご支援、ご協力の程、
よろしくお願い申し上げます。



（問い合わせ先）

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

電話：026-293-5926

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P： <https://naganomaibun.or.jp/>

担当：杉木/鈴木/酒井